

外国人児童生徒の学びを止めるな！

～教育DXが実現するリアルタイム
多言語支援実験の最前線～

豚のPちゃん
と
32人の小学生

命の授業900日

黒田恭史 著

映画化決定！

主演 妻夫木聡



©2008「ブタがいた教室」製作委員会

ミネルヴァ書房

一般社団法人黒田教育研究所代表理事
京都教育大学教育学部教授

黒田恭史

アウトライン

- (1) 日本の顕在化する教育課題
- (2) 黒田教育研究所のミッションと経緯
- (3) 外国人の子どもたちの母語・日本語支援
- (4) 今後に向けた取り組み

子供たちを取り巻くこれからの社会の状況

- 不確実性の高まり（少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等）
→子供たちは、激しい変化が止まることがない時代を生きる
- 労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換
→自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性
- 内なるグローバル化やデジタル化の負の側面等による社会の分断の芽への指摘
→多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性
- テクノロジーは変化に伴う困難だけでなく多様な個人の思いを具現化するチャンスも生み出す
→生産年齢人口が急減する中、あらゆる資源を総動員し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが不可欠

現在の学校現場の状況

- 現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけではなく、「何ができるようになるか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示
- コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善が行われてきた
- 全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている
→我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けている

顕在化している課題

①主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- ・ 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- ・ 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- ・ これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

②学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- ・ 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- ・ 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③デジタル学習基盤の効果的な活用

- ・ デジタル学習基盤(※)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- ・ 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- ・ 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

(※) GIGA スクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤

- 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きい

→これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要

- 教師の努力と熱意に対して過度な依存はできず、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性

→令和6年8月の中央教育審議会答申に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展

年齢別外国人住民人口

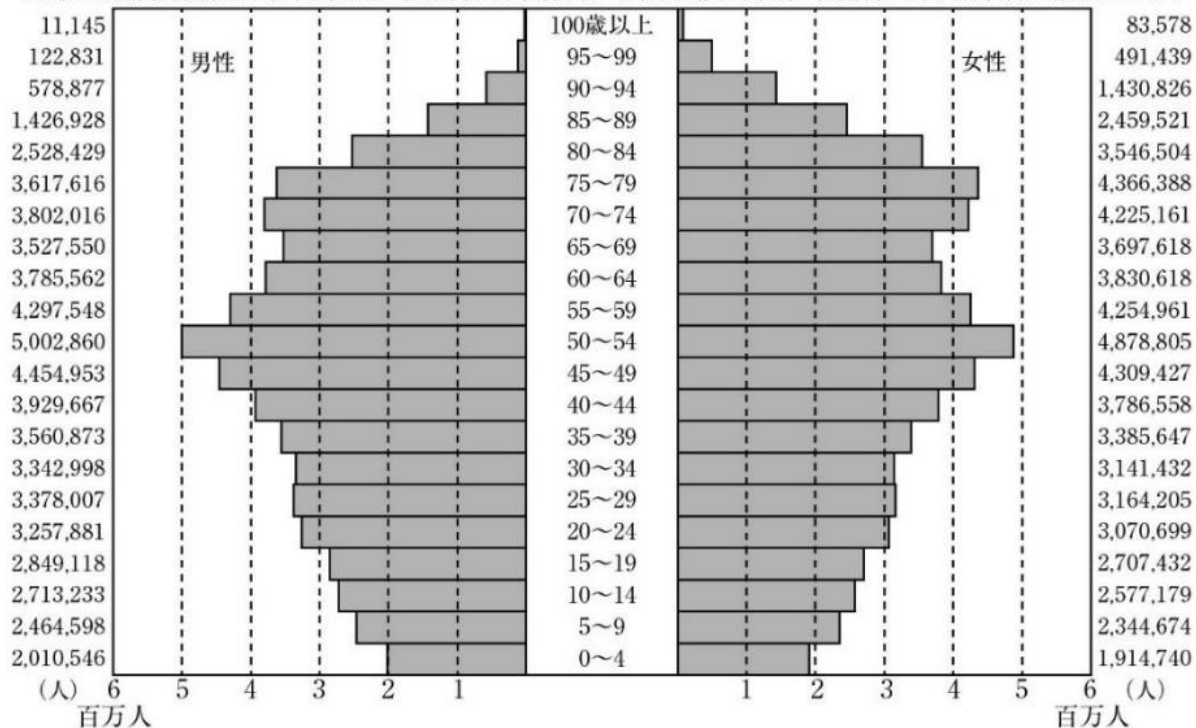
9位 北海道 約504.5万人(2025)

外国人 約395.7万人(2025)

10位 静岡県 約357.5万人(2025)

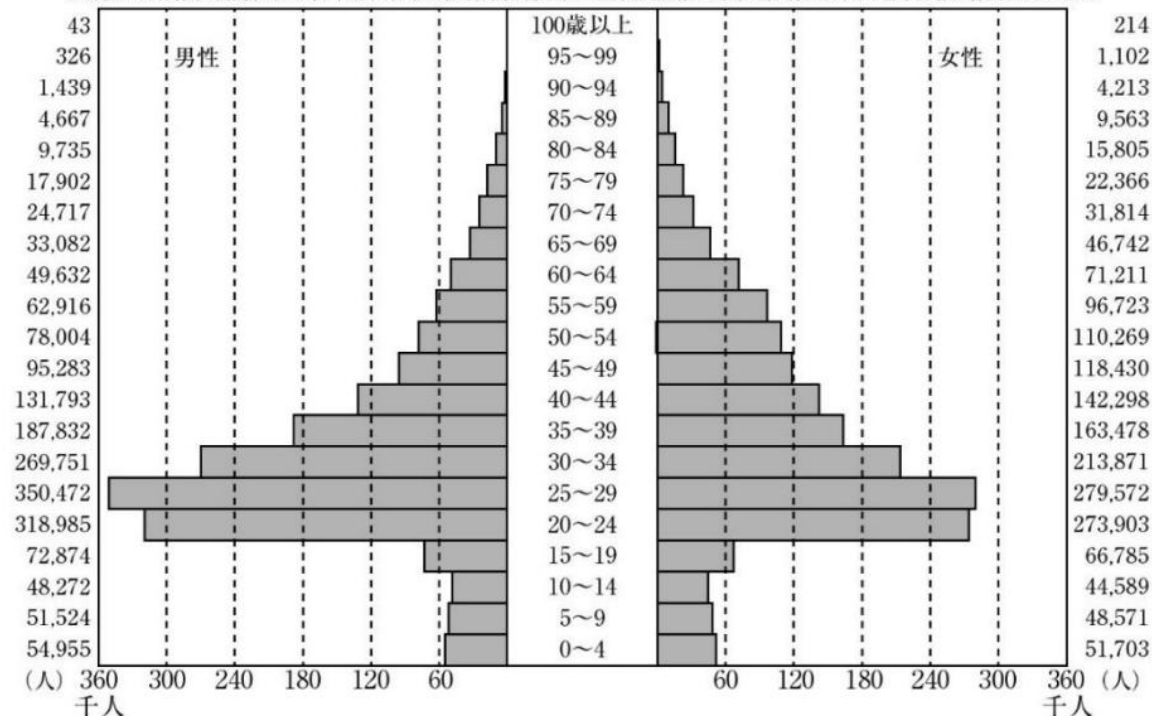
第7-1図 全国の年齢階級（5歳階級）別人口【総計】（令和7年人口）

※数値には、青森県、茨城県、栃木県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県、愛知県、三重県、大阪府、兵庫県、岡山県、福岡県における年齢不詳者33名を含んでいない。



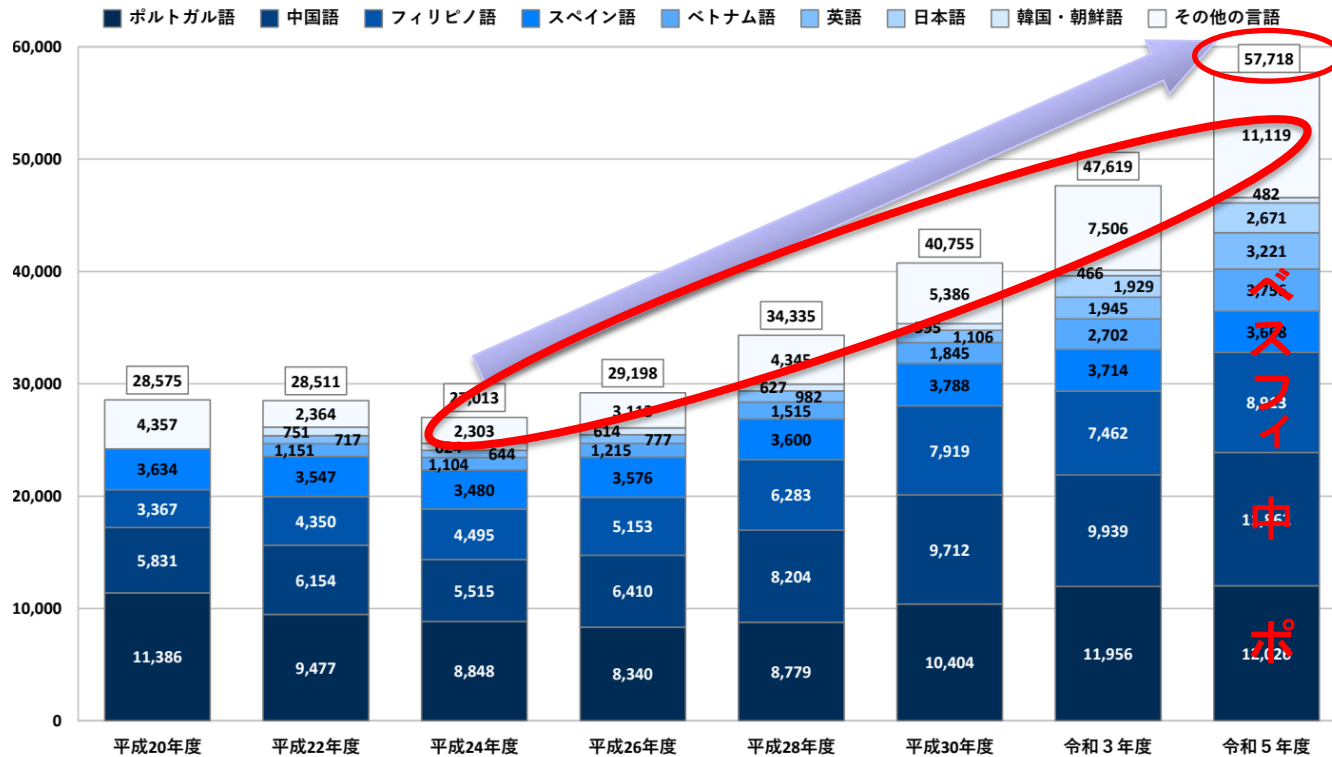
第7-3図 全国の年齢階級（5歳階級）別人口【外国人住民】（令和7年人口）

※数値には、青森県、茨城県、栃木県、千葉県、神奈川県、新潟県、愛知県、三重県、大阪府、兵庫県、岡山県における年齢不詳者28名を含んでいない。



- 日本の人口は50年間継続して減少／労働力不足問題が深刻
- 外国人住民人口は、20～34歳の急増が顕著、今後は子どもの増加が予想
- 外国人の子どもの教育保障が今後の重要課題

日本語指導が必要な子どもの数



文部科学省:「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(令和5年度)」の結果について 令和6年8月

- 日本語指導が必要な外国籍の子ども
約5万8千人
- +
- 日本語指導が必要な日本国籍の子ども
約1万1千人
- =
- 日本語指導が必要な子どもの総数
約6万9千人

- 必要な子どもの数は**11年間で約2.1倍**に増加
- ブラジルポルトガル、中国、フィリピン、スペイン、ベトナムの順
- 多言語化**が進行 / しかし、学校現場の対応は**途上**

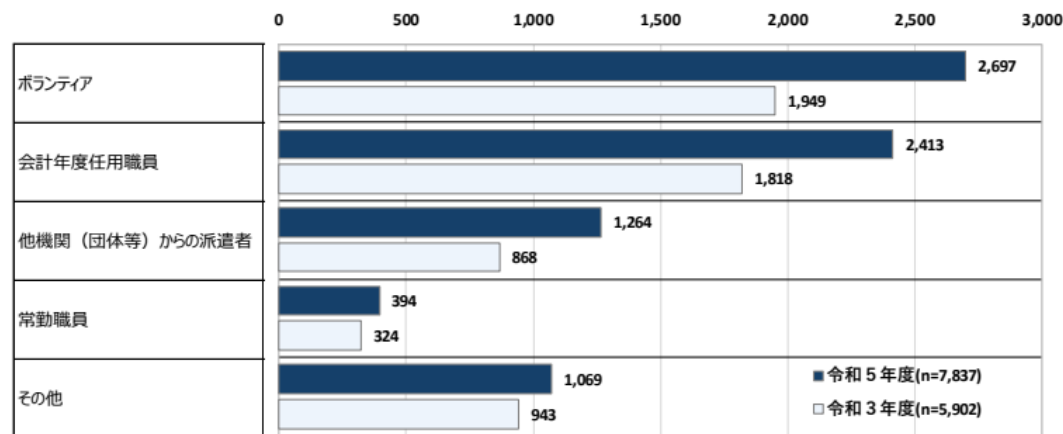
日本語指導の支援者・母語支援員

2.7.5 「日本語指導の支援者」の配置状況

貴教育委員会において、令和5年5月1日現在で雇用・登録等されている日本語指導の支援者（学校において日本語指導の支援を行う外部人材）について、雇用形態等別に人数を回答してください。これらの者の雇用・登録等がない場合には、「0」を記入してください。

(1) 雇用・登録人数

		総数(n)	(ア) 常勤職員	(イ) 会計年度任用職員	(ウ) ボランティア	(エ) 他機関（団体等） からの派遣者	(オ) その他
令和5年度	合計人数	7,837	394	2,413	2,697	1,264	1,069
令和3年度	合計人数	5,902	324	1,818	1,949	868	943



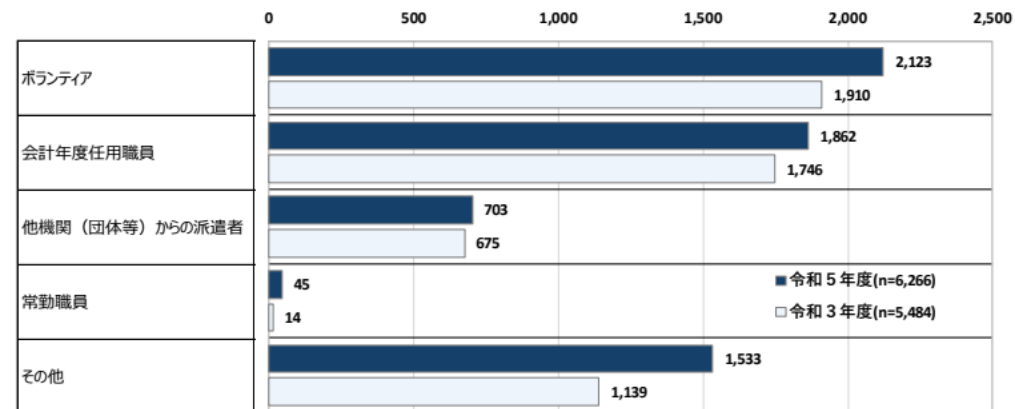
※該当する雇用・登録人数。

2.7.6 「母語支援員」の配置状況

貴教育委員会において、令和5年5月1日現在で雇用・登録等されている母語支援員（学校において児童生徒の母語により支援（児童生徒の対応だけでなく、保護者とのやり取りや保護者向け文書の翻訳を含む）を行う外部人材）について、雇用形態等別に人数を回答してください。これらの者の雇用・登録等がない場合には、「0」を記入してください。

(1) 雇用・登録人数

		総数(n)	(ア) 常勤職員	(イ) 会計年度任用職員	(ウ) ボランティア	(エ) 他機関（団体等） からの派遣者	(オ) その他
令和5年度	合計人数	6,266	45	1,862	2,123	703	1,533
令和3年度	合計人数	5,484	14	1,746	1,910	675	1,139



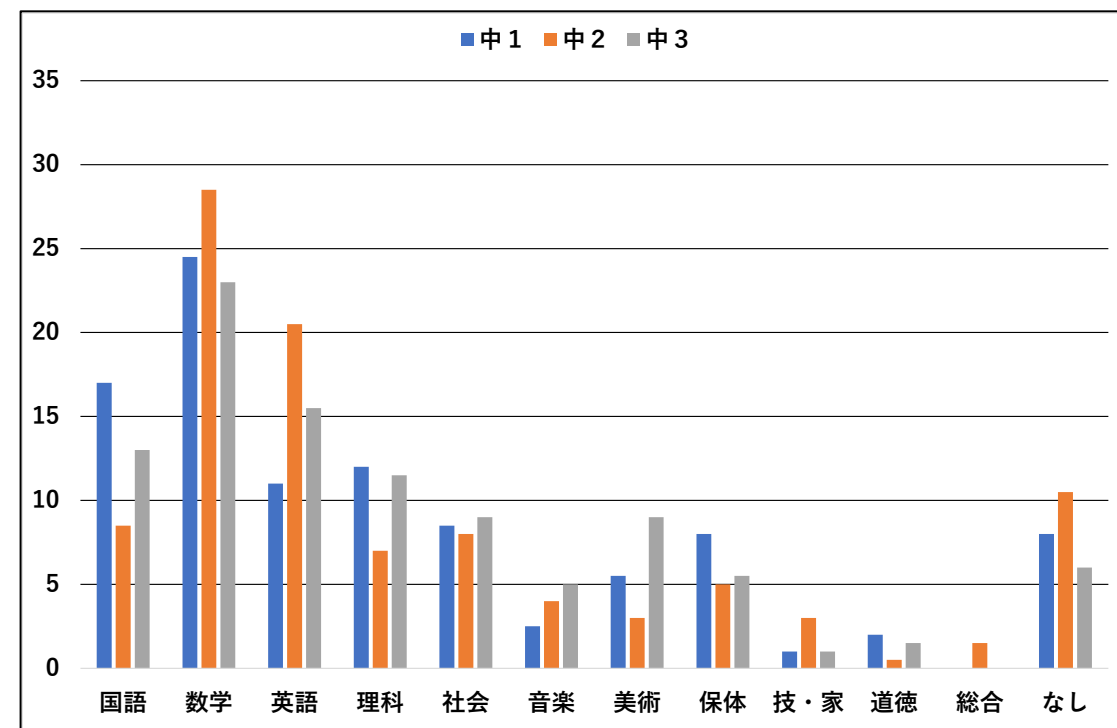
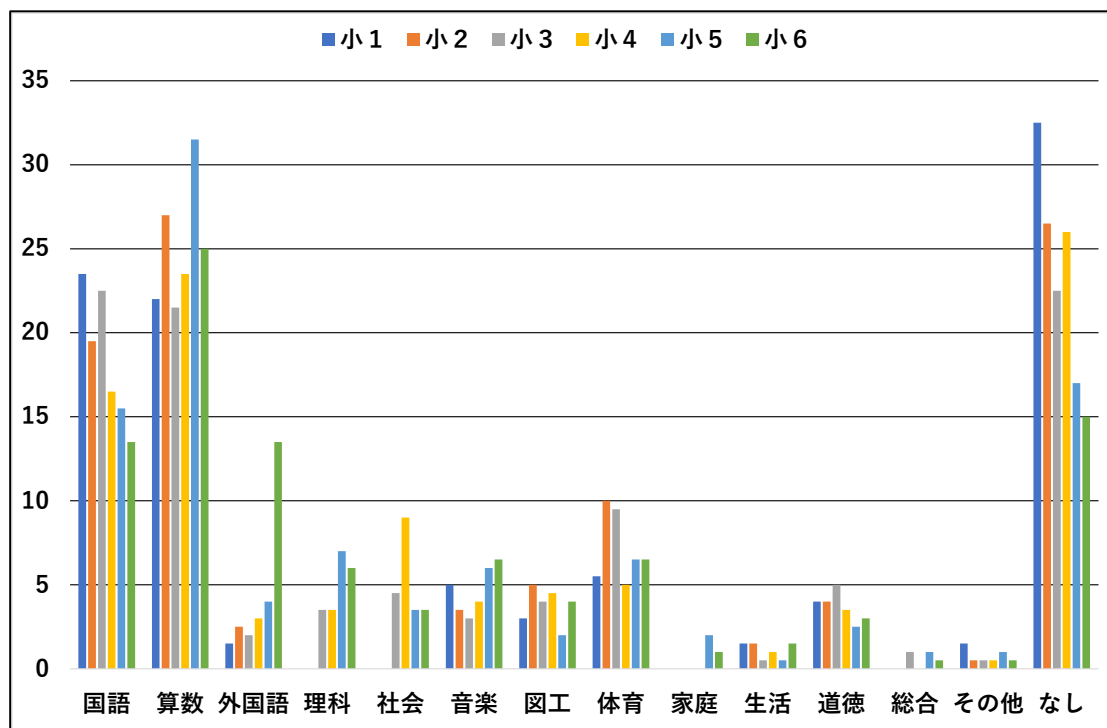
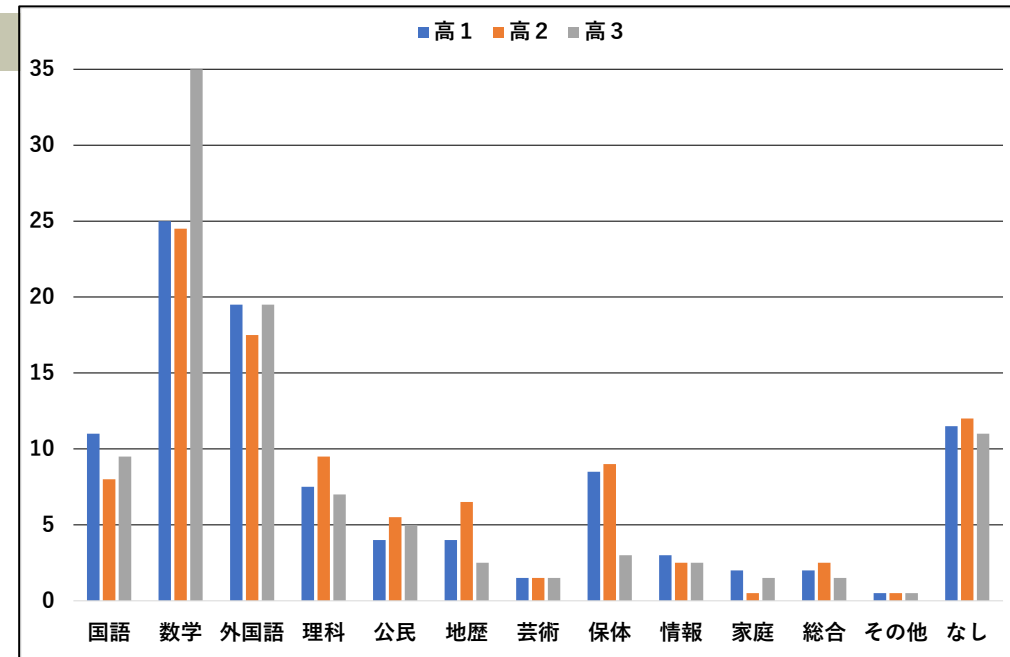
※該当する雇用・登録人数。

- 日本指導の支援者・母語支援員とも、外国人の子どもと比較して人数が少ない
- その多くが、ボランティアに頼っており、安定した支援ができていない

一番嫌いな教科

調査内容 小学生・中学生・高校生の日常生活に関する調査
 調査手法 インターネット調査
 調査期間 2025年11月6日(水)～11月14日(木)の9日間
 調査対象者 小学1年生から高校3年生までの12学年分
 (男子100名, 女子100名, 計200名) N=2,400
 調査項目 一番嫌いな教科は何ですか

学研教育総合研究所「白書シリーズWeb版 小学生白書・中学生白書」2025年11月
<https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/index.html>



アウトライン

- (1) 日本の顕在化する教育課題
- (2) 黒田教育研究所のミッションと経緯
- (3) 外国人の子どもたちの母語・日本語支援
- (4) 今後に向けた取り組み

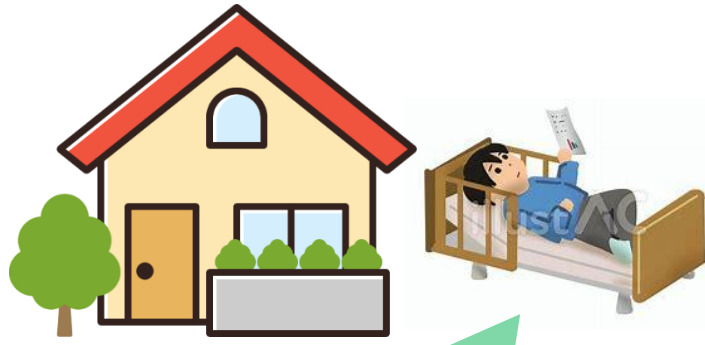
黒田教育研究所のミッションと経緯



ミッション：SDGs 4における「誰一人取り残さない教育」を日本の学校現場で実現する

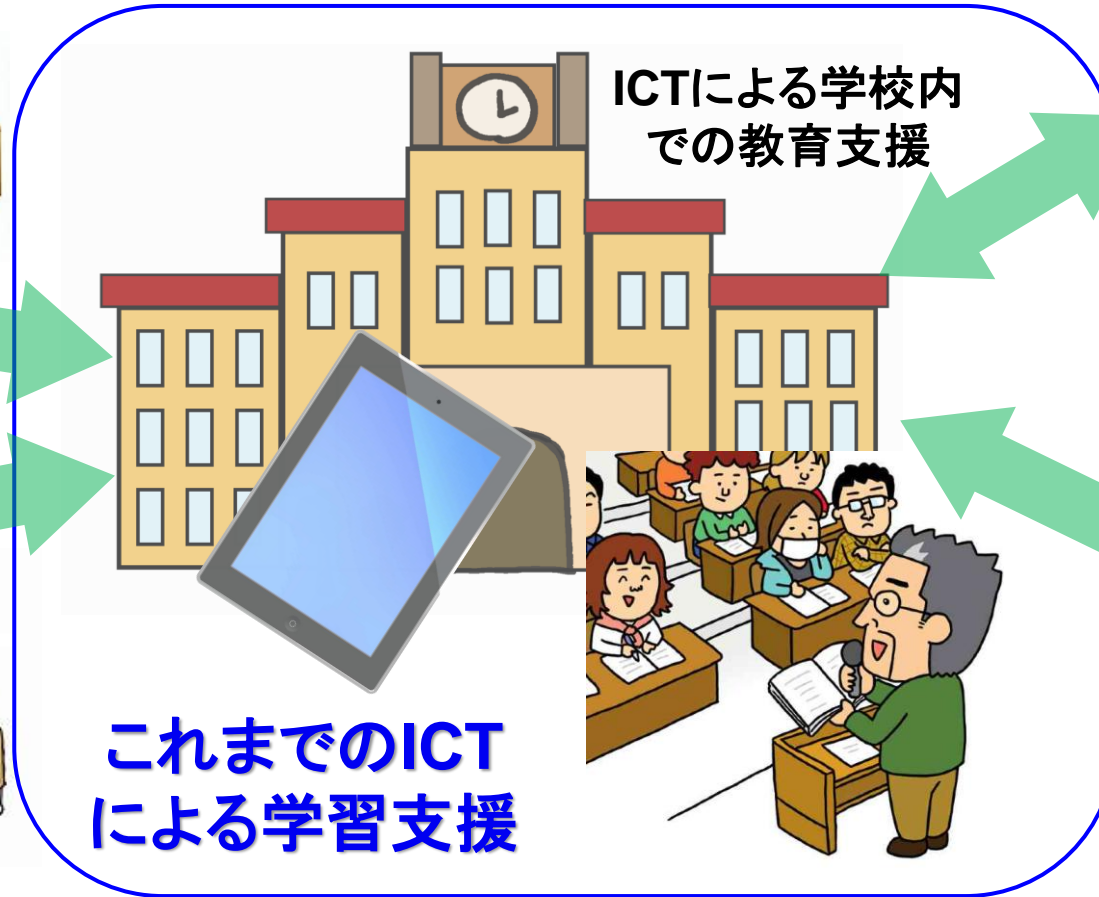
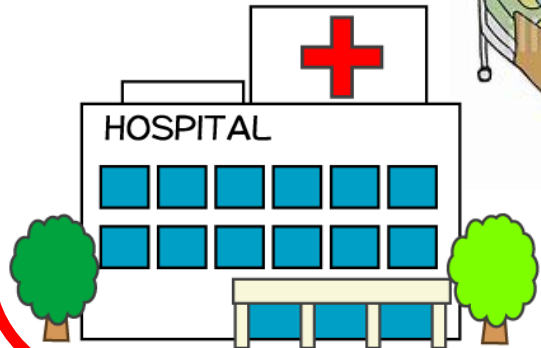
経緯：①2016年より、不登校の子ども、外国人の子ども、特別な支援を必要とする子どもに対応した算数・数学動画コンテンツを制作・無償公開
②2022年より、不登校の子ども、外国人の子ども、特別な支援を必要とする子どもに、リアルタイム多言語翻訳システムを開発・実証実験開始

これからのICTによる学習支援



ICTによる不登校
の子どもへの
学習支援

ICTによる院内
学級への
学習支援



ICTによる学校内
での教育支援

これまでのICT
による学習支援



ICTによる外国人の
子どもへの学習支援

ICTによる特別な支
援の必要な子ども
への学習支援



日本教育新聞 2016年10月3日

日本教育新聞

算数・数学の問題解法

動画投稿サイトで公開

学生が制作、不登校生を支援

京都教育大学は今月から、学生らが制作した算数・数学の問題解説をアニメーションと法をアニメーションと音声で説明する3分程度の映像を、動画投稿サイト「YouTube」で公開する。不登校の児童・生徒の学習に役立ててもらう狙い。今後、年間60本程度制作し、小学2年生

から中学3年生まで対象学年を広げていく。

映像制作しているのは、数学科2年生の30人。既に小学2年生用の筆算の仕方を映像で提供している。

筆算の説明に当たって、繰り上がりの回数や桁数に応じて一つ一つを映像化。例題で計算の手順を示してから

この映像の鑑賞者には、机に向かって学習する習慣のない児童・生徒を想定。指導を拒当する教員は「スマーカトフォン」を使って気配

に勉強してほしい」と話している。

この映像は留学生に協力してもらい翻訳。日本語での学習に困難を抱える児童・生徒も対象とし、韓国語の翻訳に続き、英語、中国語の他、フィリピン人やブラジル人の言語に対応する予定。

映像制作のきっかけ

京都教育大

は、院入学級のボランティアに携わる学生の呼び掛けに、担当教員が応じたことだった。今後、家庭科と理科などの他理科科目にも広げたいと考えた。

この他、同大学は京都の魅力を発信する映像制作事業を実施予定で、小・中学校の教科の授業での活用や、修学旅行生の事前学習に活用してもらう。地理

歴史・文学・生活・美術の各分野の映像を制作する。

同事業は（公財）大分県学コンソーシアム京都から、大学と地域の連携事業として認定された。

帰国子女らの受け入れで手引

大分県教委

日本語指導が必要な

修学旅行で東京大を訪問
「協同的学び」の成果発表

長野・木島平村立
木島平小の6年生

長野県木島平村立木
島平小学校（山屋秀夫
校長）の6年生は9月

は、教育・研究交流連
携事業に関する協定を

The Japan News 2017年8月23日

Students make foreign-language math videos for kids

By Kayo Hayashi
Yomiuri Shimbun Staff Writer

KYOTO — A group of students led by Kyoto University of Education is offering math-teaching videos on YouTube — in English, Chinese and Korean — for elementary school students with the aim of offering easy-to-understand tips to a growing number of children in Japan with foreign citizenship.

There are 40 people working on the project, including members of the university's seminar led by Prof. Yasufumi Kuroda, and students at the department of mathematics. Kuroda also serves as the head of an organization to study education methods for children

who speak languages other than Japanese, comprised mainly the university's faculty members.

Under the project, students first make videos in Japanese, and translate them into English, Chinese and Korean, with more languages planned for the future. Four international students studying at Japanese universities, such as Ritsumeikan University, also take part in the project, offering help in the translation process.

"I hope this helps boost children's understanding, and they will study actively to help achieve their dreams," said 23-year-old South Korean student Kim Seung Hwa.

The length of the videos ranges from



The Yomiuri Shimbun
Japanese and
international
students create
math materials
and translate
them at Kyoto
University of
Education in
Fushimi Ward,
Kyoto.

survey by the Education, Culture, Sports, Science and Technology Ministry. Portuguese topped the list of native languages of such children, followed by Chinese and Filipino. Teachers who

understand their languages are in short supply and there are few educational materials tailored for them, so there have been calls to extend assistance to such children.

about one to six minutes. About 200 videos in four languages, including Japanese, have been uploaded. Topics include two-digit addition, abacus calculations and drawings that show how to construct cubes and similar shapes by folding paper.

For example, a video featuring a calculation algorithm for second graders explains two-digit addition step by step in multiple languages — first add up the numbers in the ones place, then carry the number that results in the tens place of the calculation (if there is one) and then add up everything in the tens place.

The students plan to translate the materials into other languages such as

Portuguese and Filipino. In two years, they aim to offer about 900 videos in six languages that cover math topics for all elementary school grades.

"We've created exercises from scratch and tried to make it visually easy to understand them," said Mayu Matsuzaki, a 20-year-old junior at Kyoto University of Education.

Kuroda said, "We want not only children from abroad, but also children who learn at hospitals to make good use of the videos."

As of May 1 last year, there were 34,335 children with foreign citizenship who need assistance with Japanese, about 60 percent of whom were elementary school students, according to a

読売新聞 2017年8月10日

新 實 讀

算数動画 4か国語で

京都教育大生ら

算数を多言語でわかりやすく伝えたい――。京都教育大の学生らが小学生に算数を教える動画を制作し、増え続ける外国籍の子とむち向けに英、中国、韓国の3か国語への翻訳を進めている。動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開しており、さらに言語を増やす予定だ。（林華代）

(林華代)

ユーチューブ公開 1～6年の全課程目標

の課程を網羅する約900本の公開が目標だ。京都教育大3年松嶋真由さん(20)は「練習問題も一から考え、目でみてわかりやすいように心がけた」と話し、黒田教授は「外国籍だけでなく、病院で学ぶ子たちも安心して使ってほしい」と呼びかけている。

文部科学省の調査では、昨年5月1日現在で日本語指導が必要な外国籍の児童生徒は3万4335人に上り、小学生が約6割を占める。母国語の割合ではポルトガル語が最多で中国語、フィリピン語と続く。子どもたちの言語を理解できる教員や教材が不足し、支援の必要性が指摘されている。

算数の教材を作成し、翻訳を進めている学生と留学生たち（伏見区の京都教育大で）



最近の受賞

2022年11月2日：第7回IMS Japan賞 優秀賞受賞
「ウクライナ語版算数・数学動画制作と公開による教育支援プロジェクト」

2023年9月30日：第3回SDGsジャパンスカラシップ
岩佐賞（教育の部）受賞〈賞金額300万円〉
「外国人の子どものための多言語版算数・数学動画コンテンツの製作と公開による教育支援プロジェクト」

2023年10月23日：2023年日本民間放送連盟賞
（特別表彰 青少年向け番組）最優秀受賞 関西テレビ放送「ザ・ドキュメント ウクライナ、9×9の歌 明日をつくる子どもたちへ」

青少年向け番組

最優秀



審査員証 / 最優秀受賞のことば
MO民放online

ザ・ドキュメント ウクライナ、9×9の歌 明日をつくる子どもたちへ

関西テレビ放送

プロデューサー 萩原 守、ディレクター 井上真一、撮影 竹田光彦、編集 宮村泰弘

ロシアによる侵襲以来、ウクライナの人々が国外に避難し、日本にも2000人以上が暮らしている。そのうち約400人は18歳未満の子どもたち。勉強もままならず、周囲の言葉がほとんど分からない中で過ごす時間は、彼らに何をもたらしているのか。

ウクライナでは算数の九九(くく)の暗記や、それに合わせた勉強時間が少なく、日本の学校に通う避難者の子どもたちの計算スピードは遅くなりがちだった。ウクライナ語の教材を作成し支援している京都教育大学の黒田教授が思いついたのが、「ウクライナ語の九九の歌」を作ること。教え子の学生やウクライナ出身の留学生が集まり、計画がスタート。勉強への不安を口にしていた避難者の少年は、紆余曲折を経て九九の暗記に取り組み、最後にその成果を披露し、自分の思いを口にする。

侵襲からまもなく1年になろうとする中、避難者の現状や、それを支援する人たちの姿を描く。日本にいても戦争は決して他人事ではなく、身近にその影響が存在するのだという気づきを与えてくれる番組と高く評価された。



京都教育大学 外国人の子どもの教育を考える会（代表者 黒田恭史）

社会課題の解決やSDGsの達成へと地道に行動する人たちを応援する「SDGsジャパンスカラシップ 岩佐賞」（SDGs岩佐賞）の第3回受賞者が9月30日（土）に公表されました。SDGs ACTION!では、受賞者の方たちの活動内容をご紹介します。（Sponsored by 岩佐教育文化財団）

第3回受賞者発表の記事はこちら



活動名：外国人の子どものための多言語版算数・数学動画コンテンツの製作と公開による教育支援プロジェクト

教育の部 賞金300万円

優秀賞

京都教育大学

ウクライナ語版算数・数学
動画制作と公開による
教育支援プロジェクト



最近のマスコミ報道

2025年07月26日 **教育新聞**「音声も板書もリアルタイムに翻訳 学校向けシステムを開発」

2026年01月29日 **NHK総合テレビ**（京都地区）京いちにち「京都教育大の学生たち「不登校の子どもたちの学習動画で支援」」

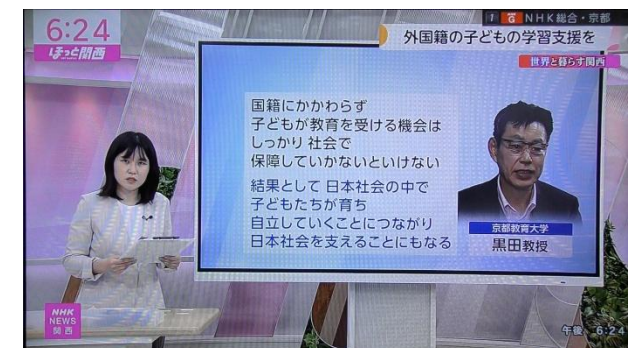
2026年02月17日 **京都新聞**「授業で日本語わからない外国籍の子ども増加、どう解決する？ 京都の大学教授がAIで挑む」

2026年03月18日 **NHK総合テレビ**（京都地区）京いちにち「AIを活用した多言語翻訳で学習をサポート」

2026年03月30日 **京都新聞**「「3分では長い」大学生の言葉が転機「今は先生も動画作るスキル必要」YouTubeで公開」

2026年04月09日 **NHK総合テレビ**（関西地区）ほっと関西 特集「世界と暮らす関西：AI翻訳で子どもたちの学習支援」

2026年04月10日 **NHKワールドJAPAN**（NEWSROOM TOKYO）「AI HELPS NEWCOMERS LEARN JAPANESE」



アウトライン

- (1) 日本の顕在化する教育課題
- (2) 黒田教育研究所のミッションと経緯
- (3) 外国人の子どもたちの母語・日本語支援
- (4) 今後に向けた取り組み

オンラインでの学習支援方法

一斉

I テレビ会議

(例) オンライン上での授業配信、探究活動、相互鑑賞・批評、創造的な活動

III オンデマンド配信

(例) 学習動画の教材配信、単純学習ドリル、生成AIに対する正しい理解

同期

非同期

II 個別対応支援

(例) 外国人の子ども／聴覚・視覚に障がいのある子どもの支援、不登校の子どもの支援

IV アバター支援

(例) 個別の困りごとの学習支援、家庭教師的学習伴走、英会話等ロールプレイング

個別

Ⅲ オンデマンド配信（無償）

黒田教育研究所

ホームページ 黒田研究室概要 黒田コラム 多言語算数・数学動画 多言語翻訳 お問い合わせ

黒田教育研究所 / 算数・数学動画コンテンツ

小学生 中学生 高校生

黒田先生と学ぶオンライン 算数・数学コース

コース紹介
Corse

強み
Strength

できること
Possible

サンプル紹介
Sample

みんなの声
Voice

よくある質問
FAQ

2024年4月7日

【提案】非認知能力をめぐって⑥「非認知能力」と「学級づくり」の関係

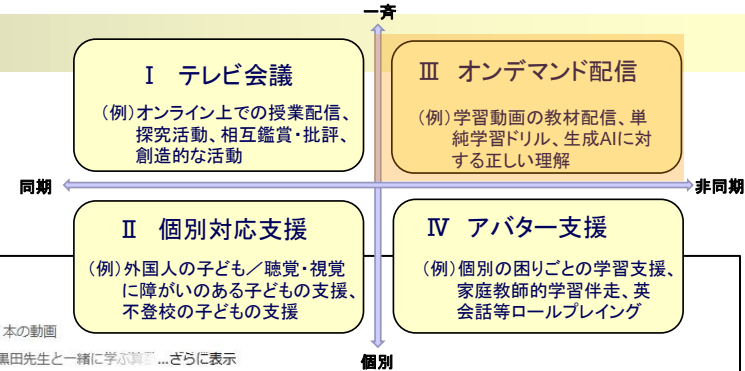
学習をはじめる



コース紹介

Corse

鳥 多言語版 算数ワークブック New!!





くろだちゃんねる

京都教育大学 教授 黒田恭史

@くろだちゃんねる・チャンネル登録者数 3620人・2702本の動画

このチャンネルでは、子ども向け算数・数学学習動画「黒田先生と一緒に学ぶ算数」...ざらに表示

チャンネルをカスタマイズ 動画を管理

ホーム 動画 再生リスト コミュニティ

算数授業要約 ちゃんねる

京都教育大学 教授 黒田恭史

特別編 #4

研究授業失敗あるある5選

特別編_研究授業失敗あるある5選

1,385 回視聴・2年前

小学校での算数授業づくりのための研究授業において失敗する「あるある」、テンポよく解説していきます。通勤中の電車や車の中、自宅でホッと一息ついたときに、聴くだけで算数授業づくりの要点がわかります。小学校の先生や保護者の方々に視聴していただければ幸いです。...

詳細



黒田教育研究所

Kuroda Educational Research Lab.

おすすめ

算数授業要約 ちゃんねる

京都教育大学 教授 黒田恭史

ここを押さえる！指導のポイント

6年生 #21

代表値

6年生_代表値

91 回視聴・5か月前

算数授業要約 ちゃんねる

京都教育大学 教授 黒田恭史

ここを押さえる！指導のポイント

6年生 #25

拡大図と縮図

6年生_拡大図と縮図

152 回視聴・5か月前

数学授業要約 ちゃんねる

京都教育大学 教授 黒田恭史

ここを押さえる！指導のポイント

1年生 #3

四則混合文字式

中1年生_四則混合文字式

98 回視聴・5か月前

算数授業要約 ちゃんねる

京都教育大学 教授 黒田恭史

ここを押さえる！指導のポイント

特別編 #15

よい授業に共通する綺麗な教室5選

特別編_よい授業に共通する綺麗な教室5選

631 回視聴・1年前

- 日本語版，ポルトガル語，中国語，韓国語，英語，ベトナム語、フィリピン語、ウクライナ語版（小学校～高等学校）算数・数学コンテンツ：約3,300本
- 小学校算数版「黒田先生と一緒に学ぼう」：約1,200本

日本語版コンテンツ(小～高校約800本)

$$721 - 94$$

《ルール》

- ①ひっ算は、くらいをそろえる
- ②線は、ものさしで引く
- ③一のくらいから計算
十のくらいから1くり下げる
- ④十のくらいの計算
百のくらいから1くり下げる
- ⑤百のくらいの計算
- ⑥こたえを書く

	6	1	
	7	2	1
—		9	4
			7

10-9=1
1+1=2

- 画面の左側は、常に**ルールや手順**を示して、どのような展開になっているかを示している
- アニメーション機能は**最小限**にして、重なりも極力行わない
- **個性が無い**のが最大の個性

ポルトガル語版コンテンツ



《Regras》

- ① Para armar a conta, alinhar os números por ordem das casas
- ② Traçar a linha com régua
- ③ Calcular pela casa da unidade
Pegar emprestado 1 da casa da dezena
- ④ Calcular a **casa da dezena**
Pegar emprestado 1 da **casa da centena**
- ⑤ Calcular a casa da centena
- ⑥ Escrever a resposta

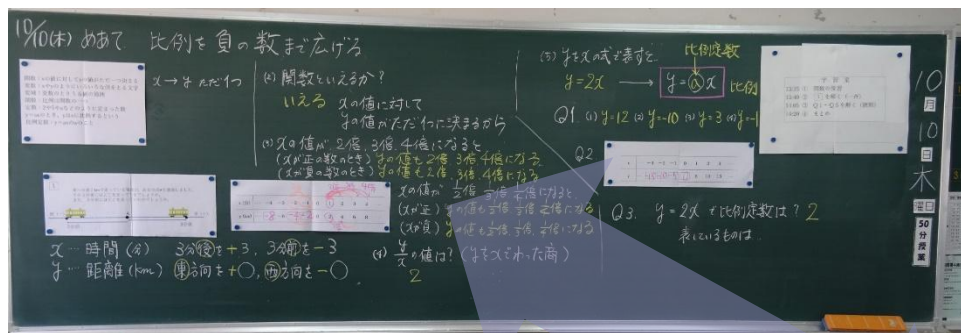
721-94

	7	¹ 2	1
—		9	4
			7

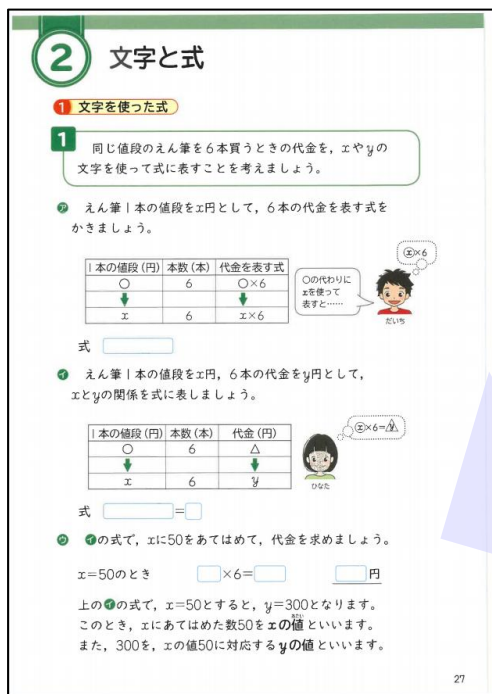
- 日本語版と全く同じ画面構成にすることで、**学習者と先生の双方が**学習内容がわかる
- 学習者にとって、母語版から日本語版への**移行**が容易になる

I テレビ会議配信(無償)

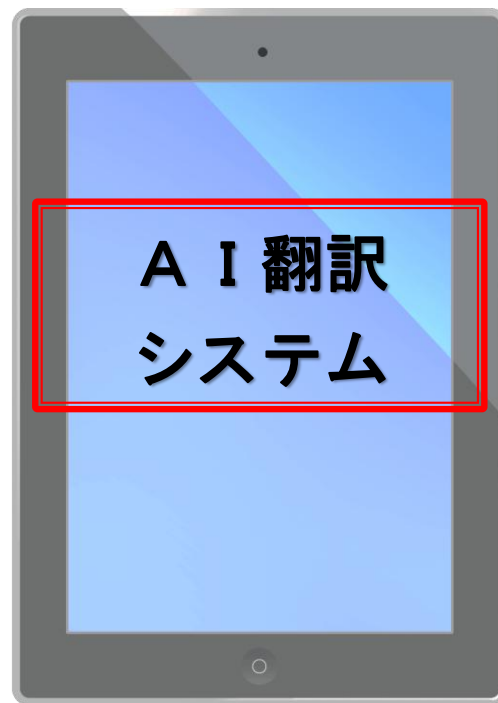
II 個別対応支援(無償)



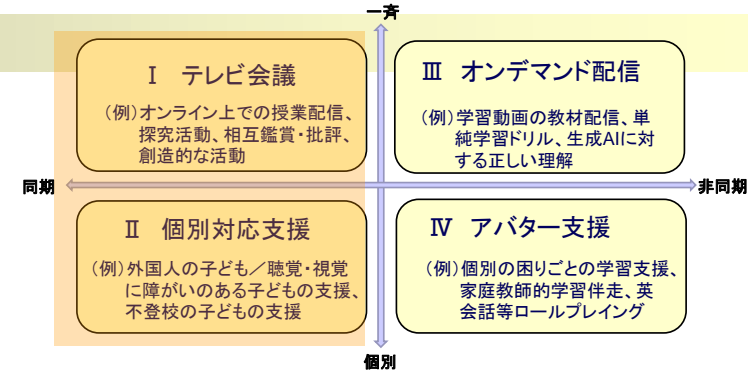
板書の
リアルタイム翻訳



教科書の
リアルタイム翻訳



EduBridge



教員と児童生徒間の
リアルタイム翻訳



外国人の子どもの
リアルタイム
日本語翻訳



リアルタイム多言語翻訳システムの具体仕様

14ヶ国語対応: 英語, 中国語(簡体字, 繁体字), 韓国語, ベトナム語, フィリピン語, ネパール語, ブラジル(ポルトガル)語, スペイン語, インドネシア語, ミャンマー語, モンゴル語, ヒンディー語, パシュトゥ語, トルコ語

- ・教師日本語発話翻訳
- ・板書日本語翻訳
- ・外国人母語発話翻訳



自宅内
学習者用端末

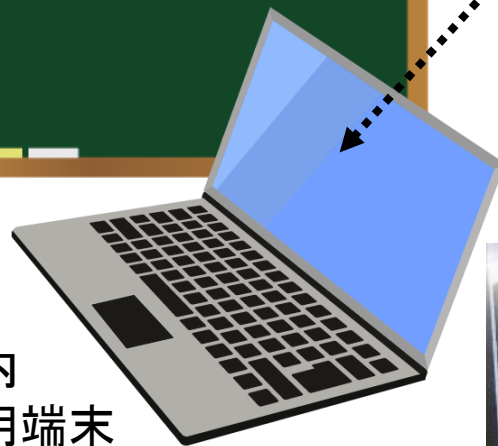


学習者用端末
画面構成

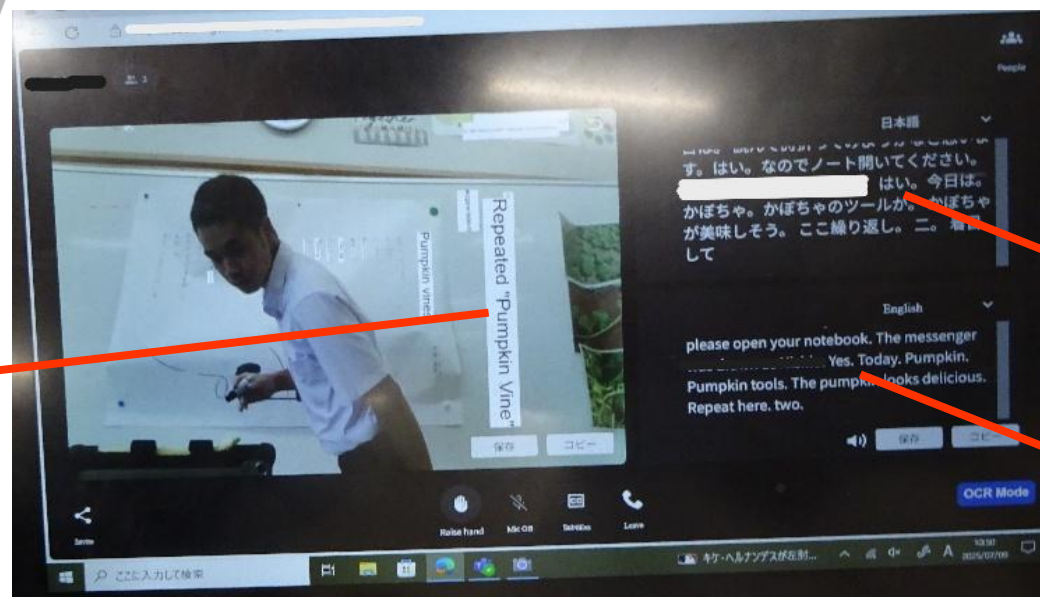
教室内
学習者用端末



教室内
教師用端末



板書画面
母語翻訳



日本語
テロップ

母語翻訳

アウトライン

- (1) 日本の顕在化する教育課題
- (2) 黒田教育研究所のミッションと経緯
- (3) 外国人の子どもたちの母語・日本語支援
- (4) 今後に向けた取り組み

福井県越前市教育委員会

算数科 多言語対応ワークブックについて

福井県越前市教育委員会

京都教育大学

黒田 恭史 様

お世話になっております。越前市教育委員会の と申します。

今回は、多言語対応ワークブックを寄贈してくださり、大変ありがとうございました。今年度より、早速、市内の小中学校にて使わせていただいております。

越前市では、現在、外国人児童が急増しており、各学校においても、増加する多様な児童生徒に対して、対応に追われている現状です。そんな中、今回の「多言語対応ワークブック」は、日本語の初期指導児童・生徒の指導において大変役立つものであり、現場の先生からも、感謝の声が多数届いております。

今回、教育現場の先生から出た意見や感想を、「使いやすさ」「改善点」という 2 つの視点からまとめさせていただいたものを送らせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

《使いやすい点》

- 日本語のわずかな意味のちがいもポルトガル語で説明してあり、たいへんわかりやすい。
- 1 ページの問題量がちょうどよく、圧迫感がない。(問題量で嫌気がささない。)
- 学年、領域別の目次になっているので、学習するところを探しやすい。
- 来日してすぐの子でも、ポルトガル語版を使って、学力のレベルチェックや計算力アップを図ることができる。
- ビデオコンテンツについて
 - ・説明のスピードがゆっくりで分かりやすい。
 - ・数字が動くなど視覚に訴える場面が多いので理解しやすい。
 - ・視聴中に、「一時停止」させ、クラス全体で考えるなど、スモールステップで授業を進めることができる。
 - ・「円の書き方」で、円は半径の長さがどこも同じだということがよく分かり、理解しやすい。
 - ・かけ算の筆算をする場面で、位をそろえるということ、ものさしで線を引くということなどを具体的にかつ視覚的にとらえることができ、たいへん丁寧な指導ができる。

《改善をお願いしたい点》

- ・日本語版の漢字にルビがふってあるとよい。日本語学習が進んだ子どもは、日本語の用語に少しでも慣れる必要があるため。
- ・筆算のページにマス目があると計算しやすい。
- ・ブラジルの子どもたちに、分数が苦手な子が多いので、分数の問題をもう少し増やしてほしい。
- ・図形のページでは(例:P 8 5 など)、ポルトガル語版でも図形の名称など日本語での表記があった方がよい。(ルビつきで)また、面積の公式などが表示されていると、忘れている子どもたちには役立つ。
- ・文章題など言葉や説明が多い問題には普段から取り組むことが少ないので、このような翻訳された問題がある場合には、できるだけ多く取り入れてほしい。
- ・そろばんのページがやや多いのではないか。
- ・P 6 2 (面積)の長さを表す曲線が太すぎるので、やや見づらい。
- ・「円の半径と直径」のところで、説明中に、着目させたいところが太字になったり、動いたりすると動画のよさがより生かせるのではないだろうか。
- ・単位の換算も苦手な子が多いので、入れてもらいたい。
- ・越前市において、タイからの編入があった。また、今後ベトナムからの編入が予想されるため、タイ語版やベトナム語版があるとありがたい。

市内7校分の意見になります

島根県出雲市教育委員会

件名 多言語対応版算数学習コンテンツ テキストについて（お願い）【島根県出雲市教育委員会】

送信者

送信日時 2018年02月19日(月) 11:27:31

京都教育大学 外国人の子どもの教育を考える会 代表 黒田 恭史 様

この度は、「外国人の子どもたちのための多言語対応版算数学習コンテンツ」をご紹介いただき、ありがとうございます。当市ではここ数年、外国籍の児童生徒が急増し、日本語が十分でない子どもたちへの日本語指導や学習指導が課題の1つとなっています。使用する教材についても、各校の指導者が手探りの状態です。

そのため、今回ご紹介いただいたコンテンツについて、市内全校に紹介させていただいたところ、複数の学校から、テキストの希望がありました。

冊数が多くなりますが、当課宛てに送っていただけたらと思います。お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

〔送付希望冊数〕ポルトガル語版：7冊、中国語版4冊、日本語版4冊、フィリピン語版1冊

〔送付先〕〒693-8530 島根県出雲市今市町70 出雲市教育委員会 学校教育課

出雲市教育委員会 学校教育課 日本語指導担当

〒693-8530 島根県出雲市今市町70

Tel0853-21-6224 Fax0853-21-6731

まとめ

- 1) 日本語指導が必要な**外国人の子ども**や、**特別な支援を必要とする子ども**は、今後さらなる増加予測
- 2) **母語**によるオンデマンド教材や、リアルタイム**多言語翻訳**システムの活用により、外国人の子どもの母語・日本語での学習支援を実現
- 3) **言語の映像化・音声化**により、聴覚・視覚等に障がいのある子どもの学習支援を実現

今後に向けた取り組み

- 1) **継続支援学校**：京都市立向島秀蓮小中学校、東山泉小中学校、栄桜小中学校、深草小学校、京都府京田辺市立小学校、長岡京市立小学校
- 2) **多数在籍学校**：大阪市立南中学校、兵庫県立芦屋国際中等学校、愛知県立衣台高等学校、愛知県豊田市立保見中学校、大阪府立福井高等学校、桜塚高等学校
- 3) **少数在籍学校**：京都府福知山市立学校、舞鶴市立学校、綾部市立学校